

2012年9月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

ジェット気流は東アジアから太平洋、北米にかけて南北蛇行が大きく、中国付近では平年の位置と比べて南偏、日本付近では大きく北偏した。これに対応して、500hPa高度では正偏差と負偏差が交互に並ぶ波列パターンが分布し、日本の北東海上では顕著なりッジとなった。太平洋高気圧は日本の東海上で勢力が非常に強く、北・東日本に張り出し、北日本で顕著な高温となった。北極域の海水域面積は、衛星観測データのある1979年以降で最小となった。

熱帯の対流活動は、太平洋西部、ベンガル湾、インド洋西部、パキスタン付近で平年より活発、インド洋東部、中米・カリブ海で不活発だった。赤道季節内振動は不明瞭だった。対流圏下層では、北太平洋高気圧は全般に平年より強く、特に日本の東海上で顕著だった。太平洋赤道域では、西部で西風偏差、中・東部で東風偏差だった。対流圏上層では、チベット高気圧は中心付近で平年より強かった。南方振動指数は+0.3だった。

世界の天候

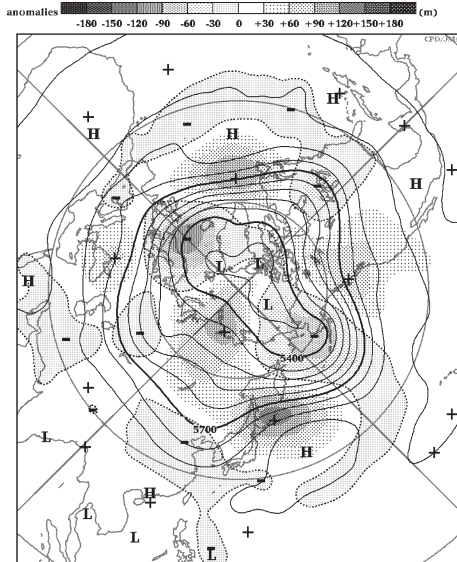
2012年9月の世界の月平均気温偏差は+0.24°Cで、1891年の統計開始以来、最も高い値となった。9月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.60°C/100年である。主な異常天候発生地域は次のとおり。

- モンスーンに伴う活発な対流活動の影響を受けて、パキスタンでは異常多雨となった。
- ヨーロッパ南東部では異常高温となった。
- 米国北部では異常少雨となった。

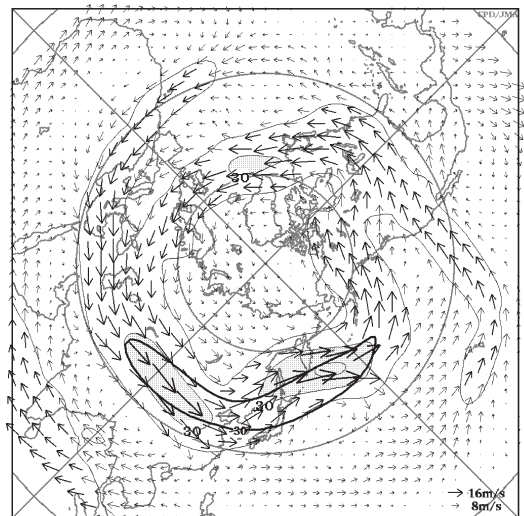
(気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

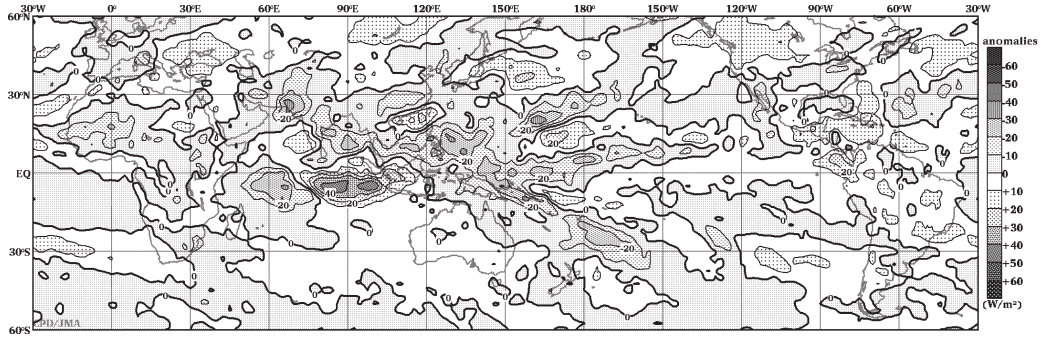
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



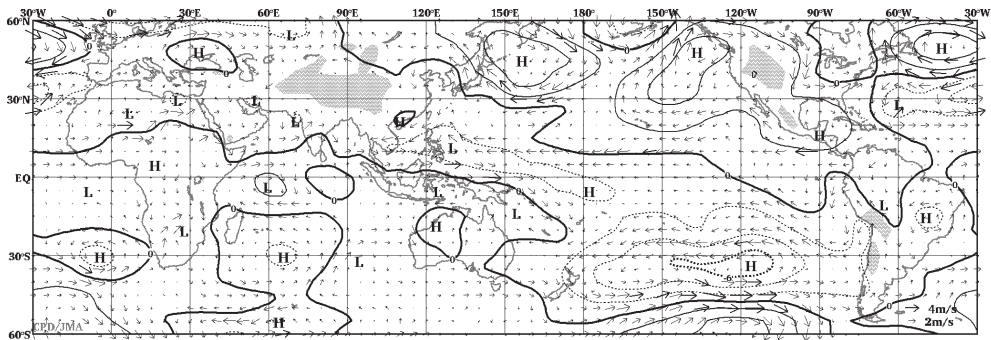
2012年9月の北半球月平均500hPa高度および年偏差
等値線間隔は60m。陰影は年偏差。年偏差は1981～2010年のデータから作成。



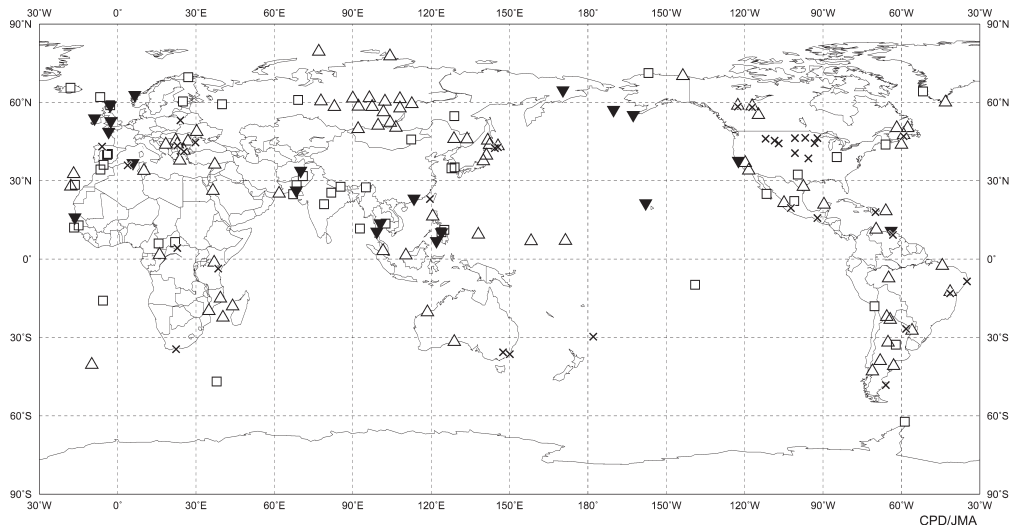
2012年9月の北半球月平均200hPa風速および風ベクトル
等値線間隔は15m/s。陰影部は30m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の30m/s以上の領域を示す。年偏差は1981～2010年のデータから作成。



2012年9月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は 10W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2012年9月の月平均850hPa 流線関数年偏差および風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6\text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2012年9月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。